

「市史編さん担当」のごと

「千葉市史編さん担当」って、いったい日常的に何をしているの？

市民の皆様のそうした疑問に答えるべく、今回は市史編さんを担当している事務局が、普段どんな活動をしているのかをここでは簡単に紹介します。事務局の日常の姿を少しでも知っていただけたら、と思います。

具体的には何をしているの？

『千葉市史』、つまり千葉市の歴史についての本を作るために、千葉市史編さん担当では千葉市に關係する資料を収集し、調査を続けています。

『千葉市史』はこれまでに、通史編3冊・史料編9冊の他に、単行本2冊・史料編別巻1冊、そして地図・絵図集2冊が刊行されています。また、毎年『千葉いまむかし』という市史研究雑誌を発行しています。現在は近現代史料編の刊行に向けて明治以降の史料を収集しているほか、聞き取り調査や市議会議事録のマイクロフィルムの内容の細目録、昔の新聞から千葉市域に関わる記事のピックアップなどの作業を進めています。

どういう組織なの？

千葉市史は、諮問機関の編纂会議・実際の編集を担当する編集委員会・事務局により構成され、千葉市史を刊行するための作業を進めています。事務局は現在千葉市立郷土博物館内に置かれています。

事務局って普段何をしているの？

事務局では、実際に市民の皆さまからお預かりしている古文書・写真などの整理・調査、千葉市に關連する資料の収集をおこなうかわら、市民の皆さまに千葉市の歴史をより身近に感じていただくために、各種講座を開催しています（講座の種類・日程などは「イベントの御案内」をご覧ください）。

それでは事務局が普段手がけている活動のなかから、今回は史料調査の様子をご覧ください。

史料調査って実際はどのようにしているの？

現在、事務局でお預かりし調査を進めている史料のひとつである中央区浜野の大堀家文書を例にとって簡単に流れをみてみましょう。

まず、史料所蔵者の大堀家から史料をお預かりし、事務局のある千葉市立郷土博物館に搬入しました。このとき、史料が土蔵などに入っている場合「現状記録」といって運び出す前にどのような状況であったのかを、写真・図などで記録していきます。

さて史料を搬入し、それぞれの史料に番号をつけたら、この番号に基づいて「史料目録」を作成していきます。後に千葉市史の刊行のための調査をおこなったり、研究をしたりするときには、この目録をもとに史料をみていくことになります。

このとき、千葉市史に掲載する可能性があるものや参考



搬入後の写真です。それぞれが箱や袋に入ったまま搬入されています。ここからそれぞれの箱や袋ごと（単位といいます）に番号を付けていきます。

出てきた順番に従って史料を一点ずつ封筒に入れます



古文書専用の中性紙封筒を使用します。

になるものについて古文書であれば、「筆耕」（現在の文字に直す作業）をします。重要なものについてはカメラで撮影し、出来る限り詳細なデータが残るようにしています。

大堀家文書は点数が膨大で調査は3年目になります。ここまでで、目録の作成が大まかに終了いたしました。概要については、改めて紙面でご報告したいと思います。…いかがでしょうか。事務局の活動に少しでもご理解をいただければと思います。

大堀家の蔵



千葉市史では市史研究雑誌『千葉いまむかし』を刊行しています。最新21号は「軍都」としての千葉に注目、前年度研究講座から鉄道連隊の回の講演録を掲載しました。

千葉市域には、千葉市街から稲毛にかけて多くの軍事施設が存在していました。千葉町に鉄道連隊が来たのは明治41年(1908)のことで、以後続々と軍隊が千葉に集まり「軍都」としての千葉が形成されていきました。中でも鉄道連隊はかなり異色の存在で、一般的に連隊は地元召集兵から成るものですが、全国から兵士が集まっていた。また、鉄道の敷設・運行・修繕といった技術を有していたため、災害復旧などの場面で周辺自治体などとの関わりが深いという特徴がありました。普段でも、鉄道運行の実習を実際にお客を乗せた路線で行うなど千葉に非常になじみ深いものでした。講演録では、そうした鉄道連隊誘致の背景から、戦争の各局面で鉄道連隊がどのように動き、また変わっていったのかを千葉周辺の状況とあわせて追っています。

また、千葉市から四街道市にかけて広がっていた「下志津軍用地」を、戦後に開拓された方からお聞きしたお話を出来る限りそのままの形で掲載しています。敗戦から60年余を経



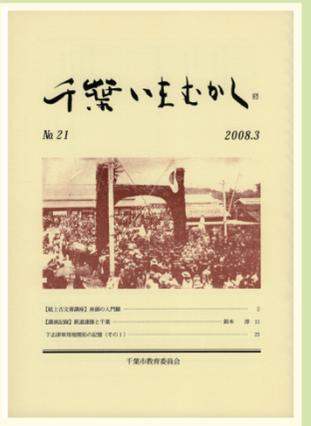
新刊紹介



て、当時のお話を知る機会がどんどん減っていく今、非常に貴重な記録となりました。今回は、長沼原地区・千種地区の二つの地区について聞き取りをした結果を掲載、どちらも同じ軍用地内ではほぼ同じ時期に入植していますが、それぞれに特徴がみられました。この聞き取りは『千葉市史史料編近現代』の準備として行ったものです。今後も継続し、いろいろなお話をストックしていきたいと思ひます。

目次：【紙上古文書講座】座頭の入門願
【講演記録】鉄道連隊と千葉
下志津軍用地開拓の記憶(その1)
活動の記録

『千葉いまむかし』は千葉市立郷土博物館受付でお求めください。郵送もできます。 B5判 104頁 600円



千葉市内の陸軍関係の学校・施設



平成19年度より開始した「市史協力員」の活動内容を紹介していただきました。

市史協力員の活動

平成19年度古文書整理実習(全8回)講座の修了にあたり、我々受講者に対して市史編さん担当者から、市史協力員(ボランティア)としての活動の呼びかけをいただいた事がこの活動の発端です。

市史協力員の活動は主として二つで、一つは館蔵古文書を教材とした郷土博物館初級古文書講座修了の方々対象の古文書学習会「亥鼻古文書倶楽部」(毎月2回開催)です。初回を昨年12月4日に行い、既に全10回を終了しました。受講者の方々には全10回の学習会により所期の目的を達成できたものと思



学習会の風景

いわゆる講義形式ではなく、参加者と一緒に読み進めていく形をとっています。

います。今一つは市史編さん担当の指導のもと館蔵古文書整理作業で、現在約三百点の整理を終えました。ゆっくりとした歩みではありますが、解説作業により我々も勉強させていただいています。市史協力員は8名、受講者は11名(19年度)です。

今後も年2回の初級講座修了者対象の学習会運営と、古文書整理作業を継続していきたいと考えています。